

管内各小・中学校において、いじめ・不登校の「未然防止」に向けた「短時間で継続的に行う『人間関係づくりプログラム』の推進」や「SC・SSW等の専門スタッフが参加した校内対策委員会の定期的開催」等、学校の組織的な取組が進められています。以下に、「2学期取組状況調査」から、「成果が表れている」と報告された取組事例を紹介します。自校のいじめ・不登校対策等の推進に向けた参考資料としてご活用ください。

1. 人間関係づくりプログラム等の実際

日田市立石井小学校 「縦割り班を活用した全校スマイル朝会」

異学年で取り組み、全校の人間関係の構築を図っている。また、6年生が中心となり取組を進めている。



- ・人間関係プログラムを楽しみにする児童の増加
- ・小規模校の強みを生かした全校での取組
- ・2学期のアンケートで「学校が楽しい」と答えた児童の増加
- ・日常的に学級のみならず全校の人間関係構築を図ることで、不登校児童0人を達成

日田市立東溪小学校 「1年生なかよしたいむ」



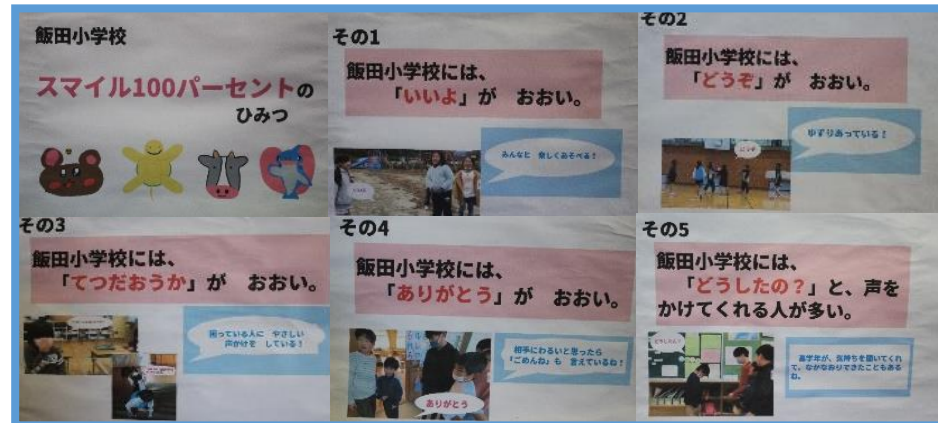
2学期は、先生シャッフルに取り組んだ。先生が変わることで、めあての「聞くこと」に集中できる児童が増えたと感じている。聞くことが友だちを認めることにつながり、子ども同士の日常的なトラブルの発件数が1学期よりも減った。

日田市立南部中学校 「人間関係づくりプログラム」



週1回の人間関係づくりプログラムの実施により、学校を楽しく感じたり、人間関係が良好となった生徒が増加した。

九重町立飯田小学校 人権集会「飯田小学校スマイル100%のひみつ」



児童の人権・平和委員会が全校集会で発表した。更にそれを児童玄関付近に掲示し、共有を図った。

2. 「人間関係づくりプログラム」 成果

①子どもの姿<気づき・協力>

- 友達の細やかな様子の変化に気づく
 - ➔友達の様子の変化を学級担任へ知らせる
 - ➔学級担任による子どもの変化への早期対応が増える
 - ➔トラブルの未然防止につながる
- 自分のいいところ(成長)に気づく
- 友達と協力することができる
- 友人やクラスの人それぞれの違いや個性を認めることができる
(振り返りに書出す)

②集団の姿<支持的風土>

- 異学年(縦割り班)での交流を定期的に行うことにより、
縦割り班活動の場面(清掃、給食当番)でのトラブルが減少
 - 学級の雰囲気よくなってきた
 - 安心した表情や笑顔が増えた
 - 授業の考えを出し合う場面で発言する子どもの数が増える
- ※不登校の減少

3. 「SC・SSW等の専門スタッフが参加した校内対策委員会」 成果

①専門性の向上

- 心理的な側面からの対処ができた
- 保護者との適切な関わり方などを確認できた
- OSCによるWISC検査により児童の困難さを客観的に知ることができた
- より適切な合理的配慮等を講じることができた
- 医療機関につなぐことができた
- 保護者が医療的ケアを行い、学校生活に対する困難さが軽減された

②効果的な対応

- 専門分野からの意見をもらうことができた
 - ➔迅速かつ適切に対応することができた
- 各事案の解決へ向けて取組を進めることができた
 - ・家庭訪問
 - ・各関係機関への連絡 等